

パークコネクト はじまりました

令和7年4月より、小平市南西部の公園・運動施設の指定管理者がこだいらパークコネクトグループになりました。
対象施設の管理運営、公園の整備などを担当します。
設計・施工・管理運営の専門企業が、相互に連携しながら、整備から運営までを一貫して行います。

1.対象施設



市立公園(南西部94公園)※鷹の台公園を含む
きつねっばら公園子どもキャンプ場



イメージ図
市民総合体育館
中央公園グラウンド・テニスコート
上水公園テニスコート



ふれあい下水道館

2.パークコネクトはどんなプロジェクト？

●パーク＝公園 ●コネクト＝つながること、結び付くこと

人と人をコネクト

志を共にする仲間を求める方
同士をコネクトします

人と公園をコネクト

表現の場や活動の場を求めている方
に場を提供しコネクトします

公園と公園をコネクト

機能・特性が異なる施設間で
連携しコネクトします



さまざまなコネクトによって、
地域に新たな価値※1をもたらす協働・連携事業をめざします

※1 新たな価値：にぎわい・交流の創出 経済波及効果 文化の伝承と創造 社会課題解決など

3.パークコネクトによるまちづくりの具体的な展開

コネクト⇒連携する

人と人との連携の力によって地域のポテンシャルを引き出して、地域課題への取組みを推進します。

- ☞地域の方のやってみたいことを、聞き取ったり意見を出し合ったりする場を設けるとともに、その実現を後押しします。
- ☞本事業に専属の市民協働担当者を、拠点公園に配置します。
- ☞小規模公園の活用や農地の景観の保全、雑木林の管理など、公園管理に付随する地域課題を発信し、連携・協働により解決を目指します。
- ☞鷹の台公園は、コミュニティガーデン運営やプレーパークなど、多くの方が関わることでできる運営を行います。
- ☞市民総合体育館や中央公園グラウンドでは、地元のプロスポーツクラブやトップアスリートとの連携によるスポーツ教室を計画しています。

コネクト⇒結び付く

人と公園（施設）を結び付け、地域への愛着が醸成される「居場所」を創出します。

- ☞鷹の台公園に、交流を生む飲食スペースや展示スペース、短期貸出用コンテナ店舗を設けます。
- ☞鷹の台公園は、広大な原っぱ広場や魅力的な遊具がある遊び場を整備し、また武蔵野の雑木林の景観を創出します。
- ☞市民総合体育館は、トレーニング室・スタジオを改装してリニューアルし、利用しやすくなりました。
- ☞小規模公園を含む各公園を、快適で安全に利用できる環境を欠かさず維持するために、日常巡回を行い、清掃や施設不具合への処置に力を入れています。
- ☞市民総合体育館では、スポーツに親しむ機会をつくるため、バラエティ豊富なスポーツ教室事業を実施しています。

コネクト⇒つなぎ合わせる

公園と公園、公園とまちをつなぎ合わせて、面的にエリア価値の向上を目指します。

- ☞鷹の台公園は、商店街と一体となり、南西部地域の新たな賑わい拠点形成します。
- ☞ボール遊びができる公園が限られていることから、中央公園グラウンドは、改修整備後、個人利用のための開放日を設け、競技スポーツだけでなく、多様な遊びもできるよう運営します。
- ☞ふれあい下水道館は、玉川上水の緑地など地域の自然環境に関する学習・体験もできるようにします。
- ☞鷹の台公園等での地域活動やその成果を、小平発のブランドとして、広く発信します。
- ☞ふれあい下水道館は、実際に使っている下水管の中を見学できるめずらしい施設です。このことを、市内外に発信します。





鷹の台公園の整備

1. 既往計画を踏まえた整備

- ・鷹の台公園整備基本計画（令和6年3月）において、「鷹の台公園を核に 地域のつながりを活かし、まちの価値を高める」ことを整備の目標としています。
- ・この目標を前提として、「つながり」の多様性をあらゆる視点で整理し、多様なつながりから生み出される賑わい、まちの価値の向上に着目しています。



2. 整備の基本方針

公園整備の考え方として、鷹の台公園と市内公園を繋ぎ合わせ、鷹の台公園と市民とを結び付け、鷹の台公園と商店街や地域活動と連携します。さらに、多様な活動の受け皿として機能できるように、作り込み過ぎない空間とします。

- ①にぎわいや滞留を生み出す空間づくり
- ②誰もが遊べる障壁のない遊び場づくり
- ③豊かで美しい自然のある環境づくり
- ④災害時等にも機能する安全・安心の基盤づくり
- ⑤地域とともに育てる公園づくり

・今後の大まかなスケジュール

年度	実施内容
令和7年度	設計業務
令和8年度	整備工事
令和9年度	供用開始

中央公園グラウンドの改修

1.現状の問題と課題

- ・水捌けや土埃対策など、維持管理上の問題が山積しています。また、グラウンドの構造や施設の老朽化等に起因した運営管理上の課題もあります。
- ・利用者や近隣の方から、改修を求める声が寄せられています。
- ・市による検討が進められ「小平市立中央公園グラウンドの改修に関する基本的な方向性」（令和6年3月）が策定されました。本改修事業はこの基本的な方向性に準拠しています。



雨天時のグラウンド



既存のフェンス



侵入防止対策の状況



バックネットと照明の状況



野球場と陸上トラックの境

2.改修整備の基本方針と概要

- ・公式認定施設で“本格的なスポーツ”に取り組みやすい利用環境を整備します。
- ・誰もが気軽にスポーツや屋外活動を快適に楽しめる利用環境を整備します。
- ・今ある自然環境を良好に保全し、スポーツに触れくつろげる環境を創出することにより、市民のスポーツの振興や健康の保持・増進にコネクトします。

施設の内容
(下図赤字)

陸上トラックエリア：第4種L（ライト）陸上競技場を公認取得
フィールドエリア：JFAのラポテストに合格したロングパイル人工芝
多目的エリア：植物由来のバイオポリエチレンを使用したバイオターフの人工芝



- ・今後の大まかなスケジュール：
 - 令和7年度 設計業務
 - 令和8年度 整備工事（グラウンドを閉鎖します）
 - 令和9年度 供用開始

中央公園グラウンドの改修

3.外周の侵入防止策と災害時対応

①利用者以外の侵入防止

- ・陸上トラック・フィールドエリアで競技が行われている際に、利用者以外の方がトラックやフィールドに侵入できないようにします。これにより、安心して競技が実施できる環境づくりを進めます。
- ・現在ある陸上トラックエリア外周の手すりと低木植栽は、侵入防止の役割があることから保全をします。低木植栽が失われている箇所には、周囲となじむように低木を補植します。
- ・グラウンド周囲の要所には、侵入防止のためのフェンスを新たに設けます。また、出入口には、鍵を掛けます。この鍵の管理については、施設管理者側であらかじめ対応を定めます。

②災害時対応

- ・中央公園グラウンドは、広域避難場所（地震などによる広域延焼火災で地域全体が危険な場合に避難する場所）に指定されています。
- ・避難者を受け入れるために、災害時に出入口が開放できるように、施設管理者側であらかじめ対応を定めます。



■侵入防止フェンスの整備イメージ



■低木補植予定箇所



■フェンス設置予定箇所

4.植栽の適正管理

①みどりの景観を保全

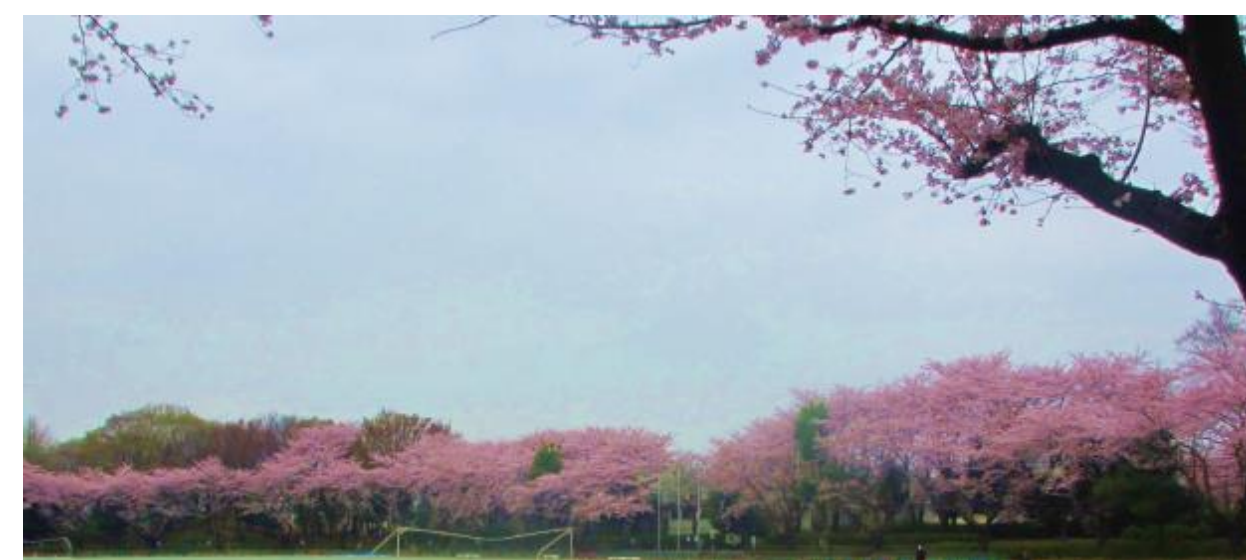
- ・中央公園グラウンドの改修や、中央公園全体の管理運営を行う際、地域の皆さんに親しまれているみどりの景観を保全することを重要視した管理を行います。
- ・中央公園の主要樹木は、中長期的な計画性のある植生管理を行います。樹木の状態を点検・把握し、管理目標（目標の姿）を定めて、管理履歴情報を蓄積しながら適正管理していきます。
- ・陸上トラックの色彩は、景観に調和し、競技者にもやさしい色彩を採用します。

②グラウンド改修に伴う周辺樹木の取扱い

- ・グラウンドの基本設計では、必須施設である用器具庫を設置する際に、既存の樹木に影響を与えない配置としました。
- ・グラウンドの再整備にあたり、既存の樹木は基本的に保全しますが、競技トラックの形状と重なる一部では、樹木を適正管理（伐採）します。基本設計段階で、6本の見込みです。
- ・伐採木は、管理運営する公園でバイオ資源として活用します。また、伐採の理由や補完植栽の情報などは、利用者や市民の皆様にわかりやすく発信していきます。

③桜の更新と再生

- ・中央公園の美しい桜並木は、市民に親しまれています。が、植えられてから年月が経過し老木化しています。
- ・可能な限り保全策を尽くしますが、桜が老木化しており、近い将来に花のボリュームが減ってしまうことが危惧されます。
- ・これらの状況を踏まえて、桜の若い苗木を中央公園内および鷹の台公園内への新植することを計画しています。



■美しいみどりの景観を保全します



■桜ライトアップイベントは継続します



■樹木医によるソメイヨシノ調査（左）・エリアごとの管理目標設定（右）



■陸上トラックの形状に重なる樹木伐採部分



■桜並木では老木化している部分を再生します

■樹木医により桜を診断していきます

中央公園グラウンドの改修

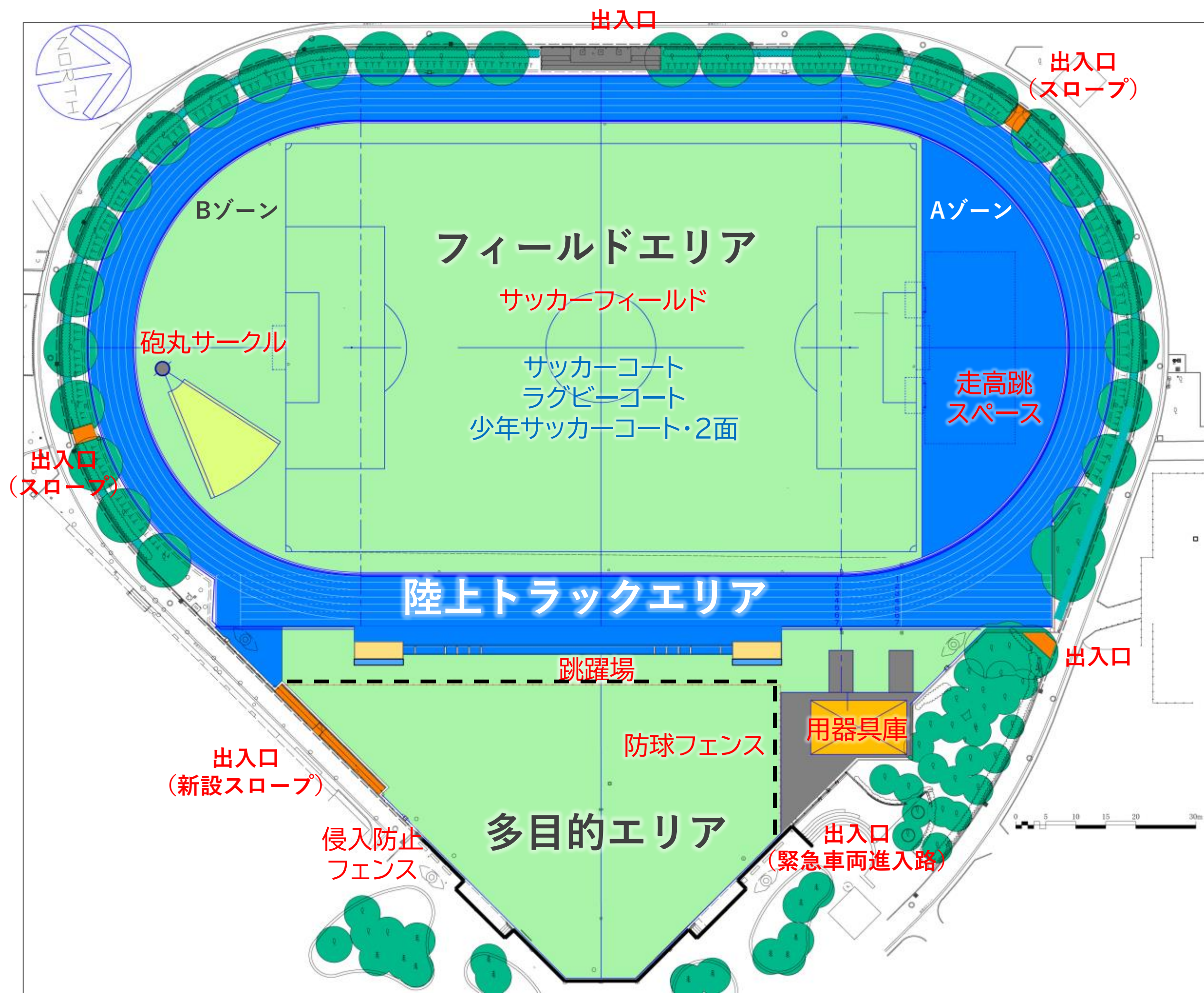
1.陸上トラックエリア

1-1.陸上トラックエリア整備

- ・第4種L（ライト）陸上競技場として、公認規程及び公認細則に示される要件を満たすように整備します。
- ・陸上トラックは、全天候型走路とします。
- ・出入口は既存箇所を基本とし、体育館側の段差箇所にスロープを新設します。
- ・緊急車両等の車両進入路は、既存の東トイレ側を活用して整備します。

1-2.陸上トラック競技以外の競技種目

- ・陸上トラック以外には、跳躍場、砲丸投げサークル、走高跳スペースを整備します。
- ・跳躍場：走幅跳などの跳躍競技を行うための場所となります。助走路、砂場などを含みます。
- ・砲丸投げサークル：Bゾーンに整備します。投てき種目を行う場所となります。
- ・走高跳スペース：Aゾーンに、走高跳が実施できるスペースを確保します。



■グラウンドのゾーン分け・主要施設等の配置



■跳躍場の整備イメージ



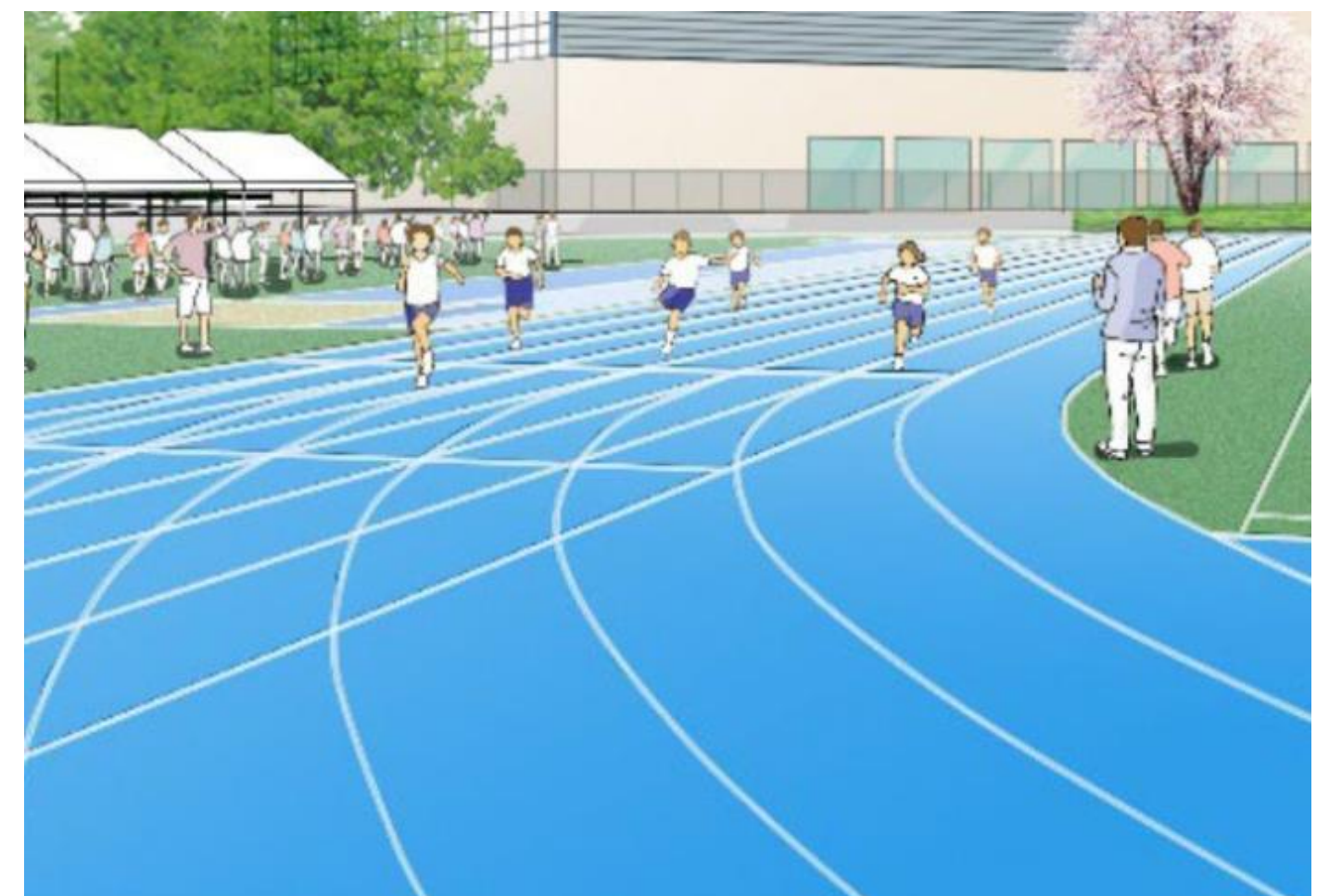
■砲丸投げサークルの整備イメージ



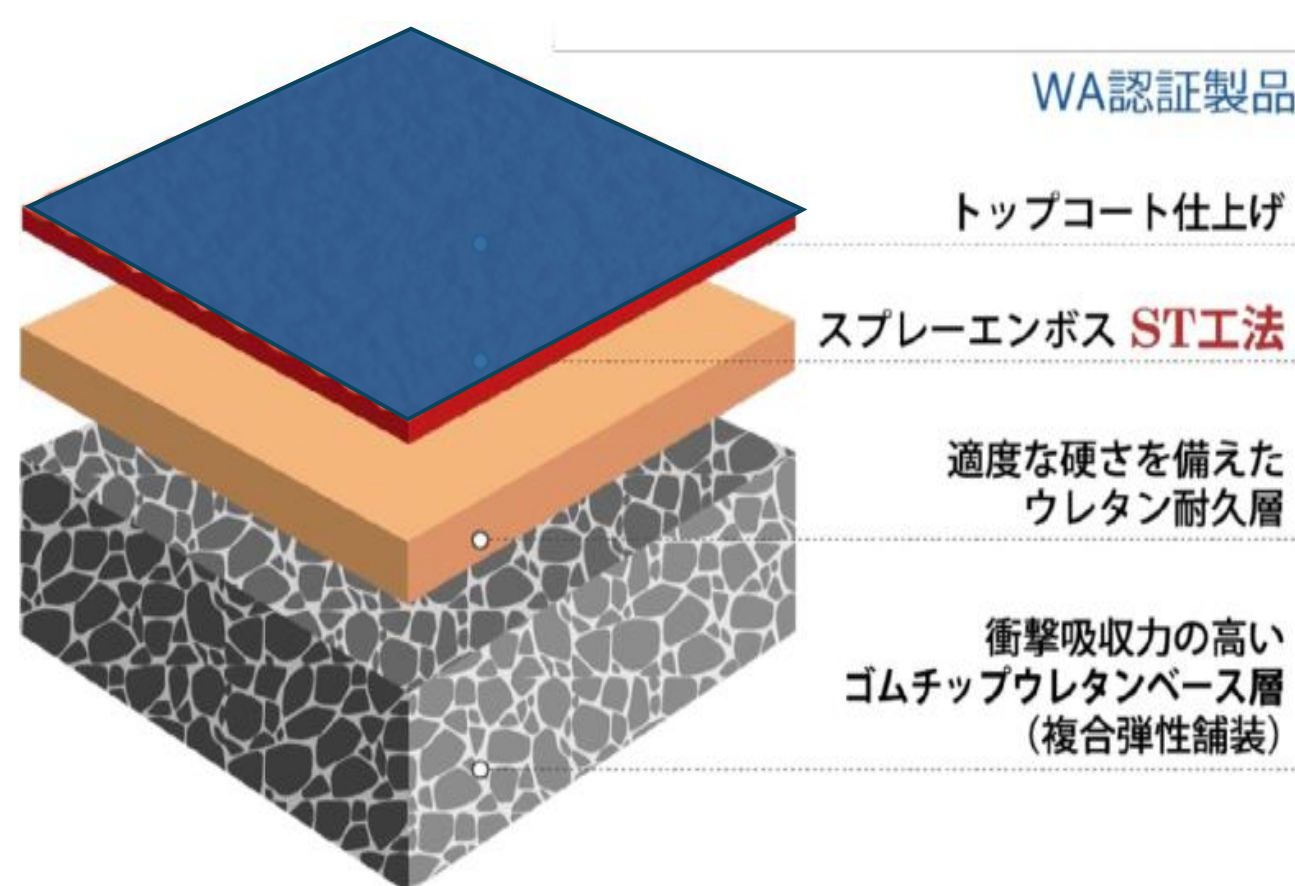
■走高跳スペースの使用イメージ

1-3.陸上トラックの舗装材料

- ・陸上トラックの舗装は、全天候型走路の舗装材として、スプレーエンボス仕上げのウレタン舗装とします。これは、耐久性が高く、排水性も良好な材料となります。
- ・ポリウレタン系全天候舗装5つの特徴
 - ①横ぶれを防ぎコーナリングも安心
 - ②表面排水性が良く雨天時でも滑りにくい
 - ③走行時の着地衝撃を吸収しランナーの筋肉疲労を軽減する
 - ④サーフェスのエンボスがスパイクピンを確実にとらえキック力を逃さない
 - ⑤エネルギーのロスが少なくスピードが加速される



■陸上トラックの利用イメージ



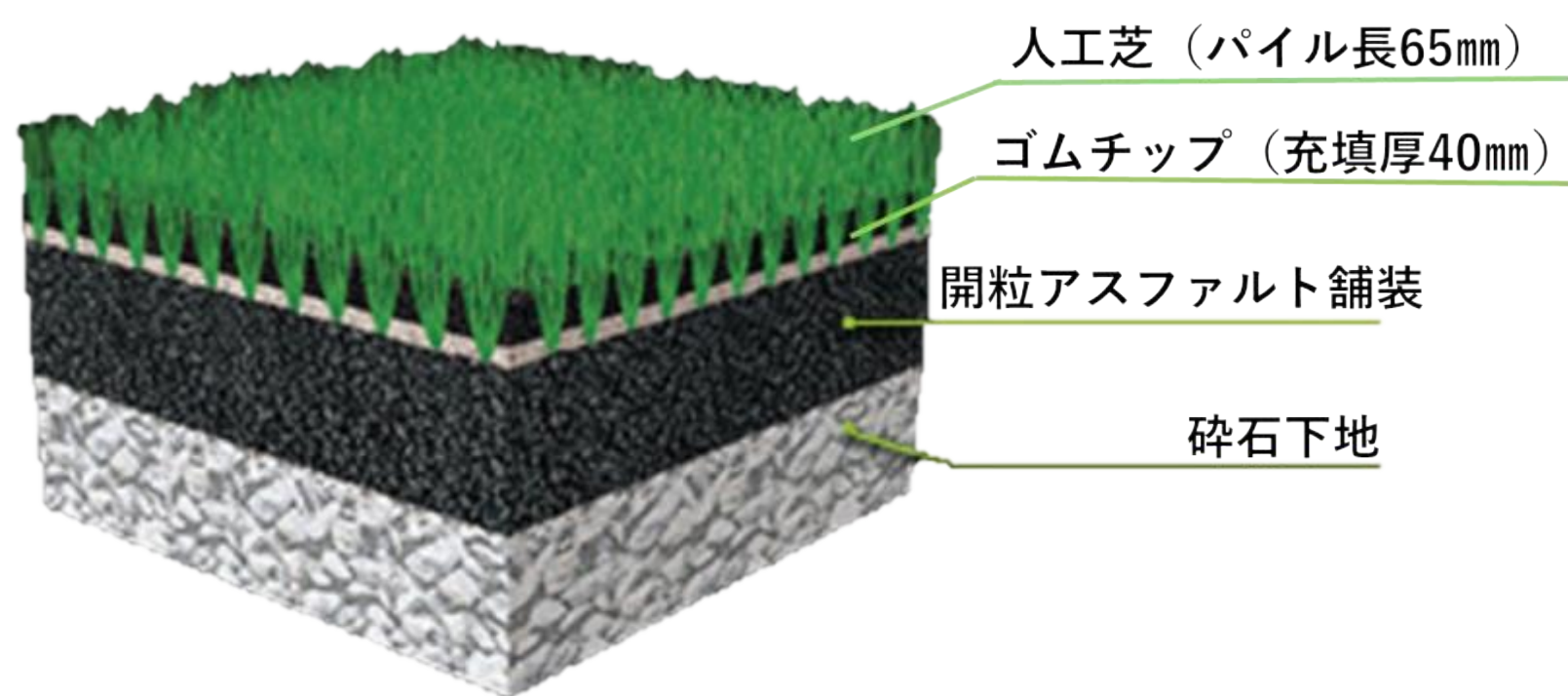
■陸上トラックの断面構成

中央公園グラウンドの改修

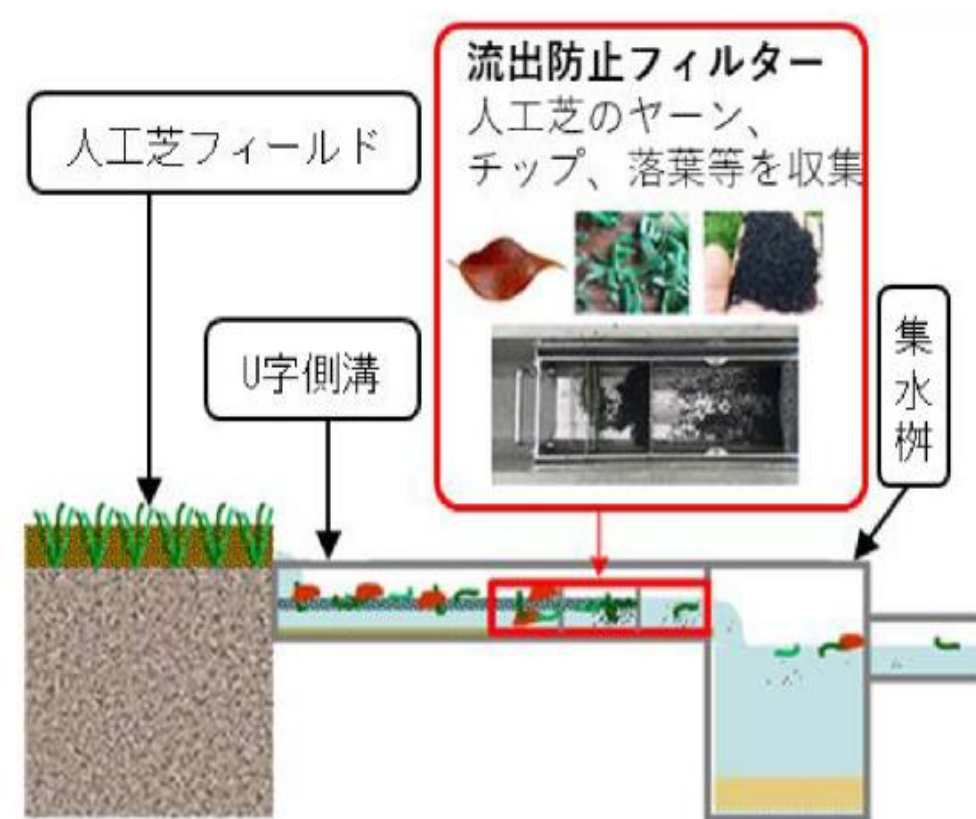
2.フィールドエリア

2-1.フィールド整備の基準

- フィールドはJFAのラボテストに合格したロングパイル人工芝（パイル長65mm）を使用し、サッカーやラグビーの競技に使用できるように整備します。このロングパイル人工芝は、Jリーグのサブピッチや関東大学サッカーリーグのピッチなど、多くの使用実績があるものです。
- このフィールドにおいても、ピッチ認定を取得します。
- 排水処理において、集水桝周辺にフィルターを設置し、人工芝から発生するマイクロプラスチックの流出を抑制します。



■人工芝の断面構成



■マイクロプラスチック流出抑制方法

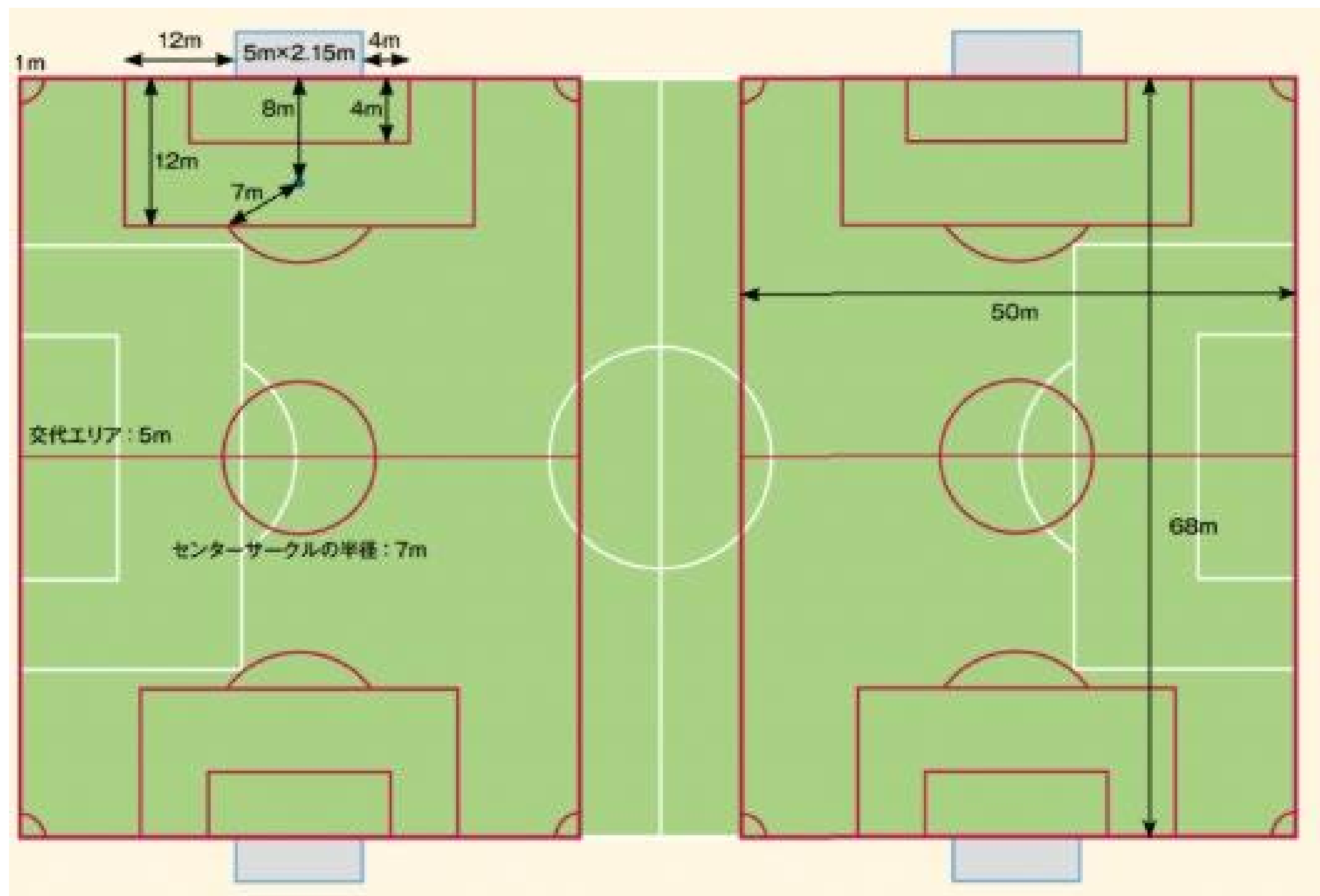
- 暑熱対策のため、人工芝内に設置した樹脂製のノズルにより散水するシステムを導入します。これは、環境省の「環境技術実証事業（ETV）」にて実証済みの技術です。



■散水システム稼働状況

2-2.フィールドの競技内容

- フィールドには、一般用サッカーライン（下図白線）と8人制サッカーライン（下図赤線）を設けます。（※現時点での予定）
- 従来どおり、コート周りでの観覧はできます。また、植栽保全のために新たな観客席は設けない計画としていますが、多目的エリアを観覧スペースとして使用することが可能です。



■フィールドの塗装ライン

中央公園グラウンドの改修

3.多目的エリア

3-1.多目的エリアについて

- ・多目的エリアを人工芝にすることにより、降雨後のコンディションの早期回復や、土埃の発生防止が実現できるなど、スポーツ施設としての役割や機能の強化を図ります。
- ・充填材にカラーチップを用いることで、人工芝の表面温度の上昇を抑制します。
- ・多目的エリアを人工芝にすることにより、野球やソフトボールの練習だけではなく、ニュースポーツや子どもの運動の場としても利用することができます。
- ・陸上トラック・フィールドエリアにおいて各種大会が開催される際に、多目的エリアは、ウォーミングアップや、観客スペースなど多目的に利用できます。



■多目的エリアの整備イメージ

3-2.多目的エリアの利用内容

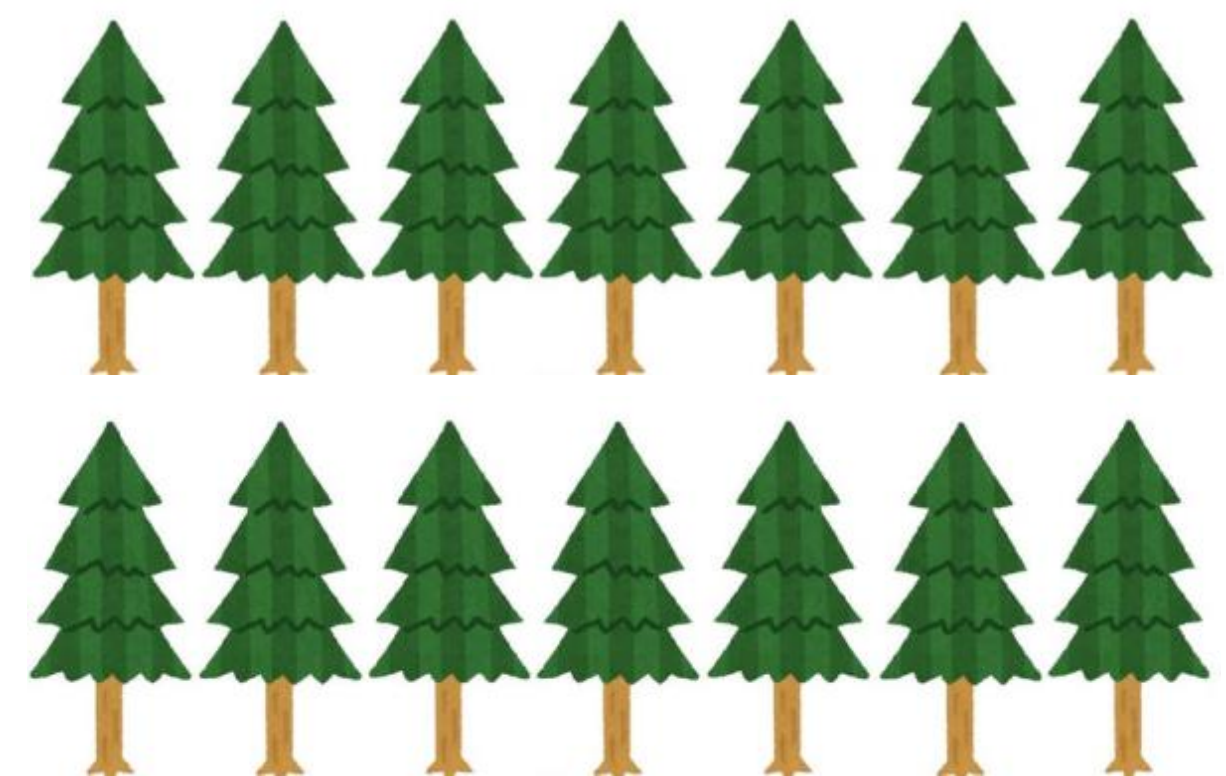
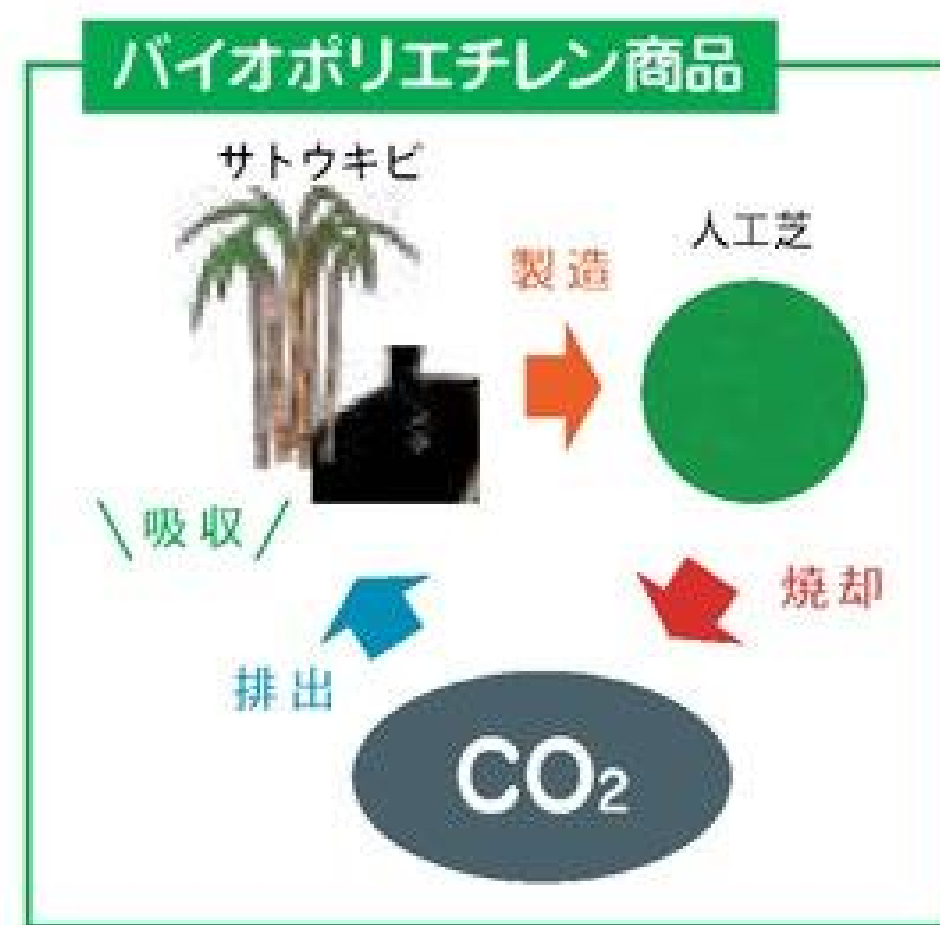
- ・多様な利用に対応できるように、多目的エリアと陸上トラック・フィールドエリアを隔てる防球ネット（取り外し可能な抜き差し式のもの）を設けます。
- ・異なる利用者が同時利用できるように、多目的エリア内は可動式のついたて柵によって区画を分けることが可能な運用をします。
- ・全天候での利用や、幼児などのボール遊びもできるようになります。
- ・比較的利用の少ない平日を中心に、一般利用枠を設けます。個人利用や近隣学校の部活動等、多様なニーズに合わせた貸出を行い、利用促進を図ります。



■多目的エリアでは多様な利用ができます

3-3.多目的エリアの人工芝

- ・多目的エリアの人工芝は、バイオターフを用います。バイオターフは、サトウキビ搾りかす由来のエタノールを原料の一部に使用したバイオポリエチレンを使用しています。
- ・この人工芝を用いることにより、石油資源の消費や、温室効果ガス排出を抑制します。
- ・バイオターフは、公益財団法人日本環境協会のエコマークや、一般社団法人日本バイオプラスチック協会のバイオマスプラマークを取得しています。バイオターフは、環境法規を順守した工程で製造していることを、第三者機関によって、証明されています。



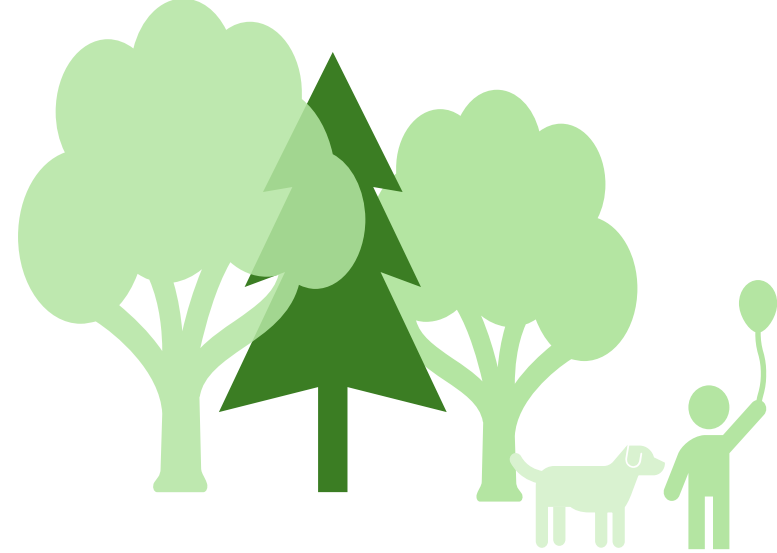
■従来のポリエチレン製品を使用した場合と比べて、約364本の杉が1年間に吸収する量に相当するCO2を削減

3-4.多目的エリア使い方

- ・多目的エリアのさまざまな利用パターンを選択できるようにすることで、競技や試合等の規模や運営内容に合わせた使い方ができます。
- ・陸上トラック・フィールドエリアで、競技や試合等が開催されている時でも、多目的エリアの一部または全部を異なる利用者が利用できます。
- ・多目的エリア内は可動式のついたて柵で分割が可能で、利用する団体等のニーズに応じ、小人数で利用することができます。（使用例：ヨガ、ストレッチ、プレイキングダンス教室等）

■多目的エリアの利用パターン

フィールド・トラックエリアとの区分と利用想定	利用パターン図
<ul style="list-style-type: none">●防球ネット取り外し・グラウンド全域で利用します<ul style="list-style-type: none">・競技会等の運営スペース・競技者、選手のアップスペース・陸上競技会等の観客スペース	
<ul style="list-style-type: none">●防球ネットの取付位置を2段階から選択が可能です。（利用内容は上記と同様を想定しますが、規模のニーズに合わせた対応が可能です。）	
<ul style="list-style-type: none">●多目的エリア内は、可動式のついたて柵で2分割が可能となります<ul style="list-style-type: none">・地域の団体等のニーズに応じた貸出利用が可能です。・日常の無料開放利用を継続が容易となります。・小人数での貸出利用に対応することが出来ます。	



中央公園グラウンド改修設計図



■美しいみどりの景観を保全します

既存出入口改修（斜路）



■改修後の中央公園グラウンドのイメージパース



■中央公園グラウンド改修基本設計図



■侵入防止フェンスの整備イメージ



■陸上トラックの利用イメージ



■多目的エリアの整備イメージ



鷹の台公園基本設計図



■緑の回廊整備イメージ



■賑わい回廊整備イメージ

緑の回廊

賑わい回廊

癒しの広場

おはよう広場

パークセンターB棟



■鷹の台公園基本設計平面図

林の休憩広場



■林の休憩広場整備イメージ

コミュニティーガーデン



■コミュニティガーデン整備イメージ

パークセンターA棟

コネクトセンター



■賑わい広場整備イメージ